

医学図書館機能の変容

青木 仕(AOKI, Manabu)
順天堂大学図書館

著者は所属する私立医科大学図書館に奉職して、30 有余年になる。その間、医学図書館の日常業務はデータベースの進歩や資料の電子化、EBM を代表する医療情報サービスの変容、患者図書サービスなど医療情報提供者の拡大等医学図書館を取り巻く環境は著しく変化してきた。そこで、医学図書館の機能が大きく変容した、この 30 年間を経年的にレビューする。また、日本医学図書館協会発行の「医学図書館」のタイトルを解析し、現在の医学図書館活動を分析する。

時系列的にみる 30 年間の医学図書館関連のトピックス

- | | |
|-------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|
| 1979: 日本端末研究会発足。殿崎正明 JOIS 端末機が微増 | 1996: Unified Medical Language System(UMLS)と Internet Grateful Med |
| 1980: 「特集」視聴覚資料 | 1997: NLM が MEDLINE の Web 上での無料化を発表 |
| 1981: AIDS 文献第一号 MMWR に掲載 | 1998: EBM を支えるリサーチ・ライブラリアン養成についての調査研究。津谷喜一郎 |
| 1982: 生物医学図書館員研究会発足。山崎茂明 | 1999: JMLA 分担購入・電子ジャーナルコンソーシアム事業の開始。 |
| 1983: シソーラス研究会発足。堀江幸司 | 2000: 医中誌 Web サービス開始。 |
| 1984: 第 1 回図書館情報サービス研究大会 、東京都養育院で開催。後藤久夫
「ペーパーレス入門」安田賀計 ぎょうせい | 2001: 電子図書館 |
| 1985: 5th ICML 東京で開催 | 2002: 診療ガイドライン |
| 1986: 紙からエレクトロニクスへ | 2003: JMLA ヘルスサイエンス情報専門員認定資格制度の発足。JMLA 法人化。 |
| 1987: サーチャーの会発足。情報科学技術協会
エレクトロニックライブラリー | 2004: 国立ライフサイエンス情報センター(仮称)推進準備委員会発足。JMLA 分科会を企画 |
| 1988: 雑誌塾発足。山崎茂明 | 2005: 機関リポジトリ 国私 19 大学加入 NII が運用開始。 |
| 1989: 薬害エイズ民事訴訟が提訴 | 2006: 電子ブック |
| 1990: MEDLINE の CD-ROM 版による文献検索開始。
シルバープラッター、ダイアログ | 2007: 「特集」チュートリアル・文献管理ソフト |
| 1991: 日本看護図書館協議会発足 | 2008: JMLA 診療ガイドライン作成支援事業開始 |
| 1992: 医中誌 CD-ROM 版によるサービス開始。 | 2009: 「特集」医学図書館員のためのデジタル・ |
| 1993: 国内文献の MEDLINE への収録の増大を NLM に要望。 | 2010: 著者 ID システム |
| 1994: 全国患者図書サービス連絡会発足。山室真知子 | 2011: 我が国の電子書籍元年 |
| 1995: 「特集」健康・医療情報の提供 | |

【参考文献】

青木 仕. 特定非営利法人日本医学図書館協会の近年 20 年間のトピックス. 日本医学図書館協会 80 年記念誌. 80 年記念誌刊行編集委員会編; 2011. p. 177-8.